

令和元年度学校関係者評価

専門学校中央医療健康大学校 理学療法学科

令和元年度学校関係者評価委員

■保護者

伊藤美栄子様(保護者)

■企業関係者

牧野寛様(浦島メディカルクリニック)

■他校関係者

石塚和重様(筑波技術大学 保健科学部学部長)

1. 教育理念・目標

【自己評価結果】		平均
1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか。	A
2	教育目標は卒業時の到達が読み取れるものになっているか。	A
3	教育理念並びに教育目標が教職員・学生に浸透しているか。	B
4	組織での目標設定が適切にされ、実行できたか。	A
5	鈴木学園クレドは教職員に浸透し、実践されているか。	A
【現状の問題点】		
前年度より高評価となっており改善の結果が出ている。今後もより浸透するようにしていきたい。		
【改善のための方策】		
理念と目標を教室に掲示することで学生に浸透はしてきているが、年度毎に内容の確認をしていきたい。		
【関係者評価】		
教育理念や目標は、教室内の学生が見える位置に掲示している。年度初めに確認をしていきたいと考えている。 (大石)		

2. 学校運営

【自己評価結果】		平均
5	目標を達成するための事業計画が策定されているか	A
6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	A
7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	B
8	就業規則などの諸規定は適切に整備されているか。	B
9	組織内の連携は適切に図られているか。	B
10	上司の指示は適切にされているか	A
11	上司は提案を受け入れてくれているか	A
12	職場内での教職員教育・指導は十分なされているか。	A
13	BSCは適切に活用されているか。	B
【現状の問題点】		

情報システムの効率化については、他校の例など参考になるものを探して検討していく必要もあると思われる。

【改善のための方策】

学校全体として、学籍簿管理データの一元化をするなど対策をする必要がある。届け出、支出金調書など紙媒体でのやり取りをデータ化する事で効率を良くしたい。BSCと各担任の目標を関連付けすることで指導力アップに繋げる。

【関係者評価】

学籍簿管理データの一元化をするなどの対策が必要である。また、ペーパーレス化が推奨されている中で、未だに紙媒体での管理になっている部分もあり、作業が重複しているので改善を図りたい。(大石)

3. 教育活動

【自己評価結果】		平均
13	授業評価の実施・評価体制はあるか	B
14	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	B
15	資格試験の合格率は他校と比較して妥当か。	A
16	資格試験の不合格者の対策は適切に行われているか。	A
17	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	A
18	目標に到達しない学生には対し適切なフォローがなされているか。	A
19	職員の能力開発のために研修等を実施若しくは派遣しているか	A
20	シラバスは十分に検討し作成されていたか。	A
21	シラバスの内容見直しについて教員間で検討されていたか。	B
22	教務の問題について、組織内で適切に話し合われているか	A
23	十分に余裕を持って教育行事の準備が出来ているか。	B
24	学生による学校評価を反省し、事後の教務を改善しているか。	A

【現状の問題点】

授業評価、資格取得等に関する位置づけなどは再度方法を検討したい。項目23は学園全体の平均よりかなり低いのもっと計画的にできないか検討を要する。

【改善のための方策】

国試対策については一年次から作ってきているので、新カリキュラムの中で内容の見直しをしていきたい。各教員の担当や役割を明確にして、担当者が責任を持つようにする。不在時のコミュニケーションが不足しがちなので、意識的に密にするよう確認をしていく。

【関係者評価】

不合格者の対策とは、どんな対策か。(伊藤)学校では、模試を実施し、成績推移を見て勉強方法などのアドバイスを行っている。(大石)4年次留年者は居るか。(石塚)留年者はいない。卒業試験にて2名の不合格者が出たが、最終判定にて合格となった。(大石)国家試験合格率100%に向けては、多くの学校が足切りをしている。国家試験に向けて合格レベルまで学力の底上げをしていくことが、学校としての力になっていくと思う。(石塚)本校でも国家試験を全員受験させることが望ましいと考えている。各教員、学生が合格レベルに達するよう個別指導も強化している。(大石)項目23において、低い点数になっている理由はなにか。(鈴木)講義や国家試験対策と各教員の負担は増加している。現在は担任の持ち上がり制になっているが、学年担任制に切り替える予定である。これにより、学年ごとの業務が明確化され、教育行事の準備など余裕が持てるようになると考えている。(大石)点数比較については、目標数値の設定などはあるのか。(石塚)他学科や前年度比較で、科内で振り返りを行っている。(大石)

4. 学修成果

【自己評価結果】		平均
25	就職率の向上が図られているか	A
26	退学率の低減が図られているか	A

【現状の問題点】
特に問題はない。
【改善のための方策】
特になし。
【関係者評価】
特になし。

5. 学生生活支援

【自己評価結果】		平均
27	学生相談、カウンセリングに関する体制が整備・機能しているか。	B
28	各学校行事について、適切な事後反省を行い次回に活かしているか。	A
29	防犯・防災訓練の実施・防災計画の作成等、不法侵入・災害に対する整備は万全か。	B
30	進路活動に関する支援が整備され、機能しているか。	A
31	中途退学の理由、実状を適切に把握し、教職員で共有しているか。	A

【現状の問題点】
防災に関する意識を高めるためにどんな活動が必要か検討したい。カウンセリング体制についても問題等があれば提言をする必要がある。
【改善のための方策】
カウンセリングについては、必要のある学生へは適宜対応をしているが、それ以外の学生(全体)への周知もしていく。 防災訓練についての意識を上げる為に、災害マニュアルを活用し、避難経路や避難場所の確認などを行う。
【関係者評価】
項目27では、学校カウンセラーがいることを広く学生に周知させていき、学校カウンセラーの活用を随時進めていく必要がある。(大石)

6. 教育環境

【自己評価結果】		平均
32	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	B
【現状の問題点】		
施設整備については改善計画をつくって年度毎に行えるようにしていきたい。		
【改善のための方策】		
特別教室の利用についてのルールを定めていく。 購入備品を授業の中で充分活用出来るように組み入れていく。 備品の管理を徹底する。		
【関係者評価】		

学科の特別教室を他学科も使用するため、使用できないことがあった。(大石)学科の特別教室を使用されてしまうのか。(石塚)学科の特別教室は、優先的に使用できるよう来年度は、特別教室使用についてのルールを定めていく予定である。(大石)

7. 学生の受け入れ募集

【自己評価結果】		平均
33	学生募集のための広報資料の表現・内容並びに広報活動の方法、時期は適切か。	A
34	入学案内（パンフレット）には志願者が必要とする情報が掲載されているか。	A
35	体験入学の時期、回数、内容は適切か。	B
36	入学者選抜の時期、方針、方法は適切か。	A

【現状の問題点】

学生募集は順調に行っているが見直しは常に図っていききたい。オープンキャンパスについても反省と改善をしていく。

【改善のための方策】

オープンキャンパスの参加者数と教員の出勤日数との兼ね合いを検討する。

【関係者評価】

項目35において昨年よりも点数が低くなっているが、年間を通じて繁忙期以外の開催回数が多いのではないかと
 という意見が挙がっている。(大石)オープンキャンパスには子供と一緒に参加した。保護者としては、学校生活につ
 いて在校生の話を聞いたり、国家試験の対策や合格率を知ること、進路選択の一助としていた。(伊藤)今後も継
 続して学生スタッフの育成に力を入れていきたい。(大石)

8. 財務

【自己評価結果】		平均
37	・中長期的に所属学科の学費納入基盤は安定しているといえるか	A
38	・学科で策定した予算・収支計画・執行は有効かつ妥当なものになっているか	A

【現状の問題点】

特に問題はない

【改善のための方策】

【関係者評価】

9. 法令等の遵守

【自己評価結果】		平均
39	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	B
40	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	A

41	個人情報保護法を遵守しているか。	A
42	各種ハラスメントに対する防止・対応策が整備されているか。	A
【現状の問題点】		
個人情報管理については問題意識の持ち方であるので、各々が注意し合えるような環境にしていく必要がある。		
【改善のための方策】		
個人情報の保護に関しては、学園のルールを作成したい。		
【関係者評価】		
個人情報保護についての学園ルールが明確化されていない。今後は学園全体でルール化する必要性を感じている。(大石)		